

# 資料5-14へのコメント

2012年1月13日 第6回PLC作業班  
国立天文台

# 資料5-14

- 国立天文台提出資料である4-3への、Doc 1A/292を作成した事務局による、補足(反論?)文書
- 「3. 実験結果について」では、PLCが守るべき技術基準を示しているわけではない、としている。  
→ 理解が違う。資料4-3は、本主観試験結果の新しい利用法を示したもの

# Doc 1A/292の原文

“It is summarized from these test results that PLT noise could degrade the perceived audio quality of HF broadcasting and that the impact depends on the noise environment (field strength of man-made noise), field strength of the broadcast signal, and the type of PLT modem. **Accordingly, it may be appropriate to make reference to the ambient noise when determining protection criteria instead of the total receiving system noise power.**”

赤字は、ITU-Rでの審議で認められなかった部分

# 資料5-14は何のため?

- 資料5-14に添付されている原著主観試験報告書は試験方法や試験結果を何らの解釈も伴わずに示しているのみ。前ページの赤字部分に対応する文は存在しない。
- 赤字部分は、事務局が独自に「周囲雑音レベルまでPLCからの妨害波が許容される」との解釈を加えたもの。  
→ 資料5-14にある「PLCが守るべき技術基準を示しているわけではない」という事務局の主張と自己矛盾。
- 主観試験で参照した周囲雑音値はRec ITU-R P.372のCity (Business) とRuralであり、これらより高い28/18dB $\mu$ V/mではない。
- 従って、資料5-14第1章「現在の広帯域電力線搬送通信設備の屋内利用に関する技術基準は、この実験結果も考慮に入れた上で作成されている。」は意味不明である。